

キリスト教保育の現場における保育者の信仰と理解について

東 義 也

Faith and Understanding of Child-carers at Christian nurseries

Yoshiya HIGASHI

Abstract

This is an investigation into how many carers in nursery school which have a Christian-based constitution actually have a personal Christian faith themselves. As the result of the investigation, it was found that 93.5% principals, 55.9% managers, and 15.6% child-carers were Christians. 47% of nurseries have no Christian child-carers. Just having a Christian principal (or a pastor who acts as a principal) can not be said to be enough to advance Christian education. Also even if non-Christian carers learn to tell Bible stories or to pray, without having Christian faith themselves, true Christian education will not take place. Personal faith is after all a matter of themselves and God. So, how should Christian nurseries share the same principle of genuine Christian education? This is a serious issue for nurseries, churches, and universities. We conclude that it is important to trust the living and powerful Word of God whether child-carers are Christian or even if they are not. (Heb 4:12)

Key Words

Christian education, Christian child-carers, Christian nurseries, church

【問題と目的】

キリスト教主義である現在の所属大学に勤務して11年が過ぎた。この間に気づくことは、クリスチャン学生は非常に少ないということである。これは全国的にもおそらく言えることである。つまり、キリスト教主義の大学や短大は、昔のようにクリスチャンの学生を保育の現場に送り出せていないのが現状であろうと思われる。ただ、信者でなくても、キリスト教保育を学んだ学生たちを送り出せば、子どもたちに聖書物語を話したり、子ども讃美歌を教えたりできるのだろう。しかし、昨今の過密する短大カリキュラムの中では、「キリスト教と保育」という科目などは選択科目にせざるを得ないため、多くの学生が必ずしも受講するわけではなく、卒業・就職していくわけである。キリスト教を建学の精神とする大学が、そのキリスト教を巡る諸科目を在籍する学生たちに十分提供できない状況なのである。

一方、キリスト教保育の現場では、昔と相も変わらずキリスト教保育の名の元に保育実践がなされている。信仰をもたない保育者たちが多数を占め、また、関連科目を受講してこなかった中で、私はキリスト教保育というものはいかに成立し実践・展開されるのかと考えるようになった。このようなことは、今日もっと議論されているのではないだろうか。

そのような議論を起こすための一つの手がかりとして、私はキリスト教保育を実践する幼稚園・保育園に、信仰をもった人たちがどのくらいいるのかなどをアンケート調査した。本稿で

はその結果を報告・考察し、これからのキリスト教保育の推進のために少しでも役立つことを目的としている。

【方法】

1. 対象：キリスト教保育連盟に加盟する幼稚園又は保育園200園（北海道、奥羽、東北、関東の一部、北陸、四国の各地区）を対象にした。
 2. 時期：2004年10月末に配付し、11月に回収した。
 3. 配付と回収の方法：いずれも郵送で行った。
 4. 質問紙の構成：質問紙は次のような5つの柱からなっている。
 - ①園の概要
 - ②園長・主任・保育者の信仰歴と所属教団及び教会での役割
 - ③キリスト教保育を実践する上での意見
 - ④園と教会の関係についての意見
 - ⑤保育者を養成するキリスト教主義大学及び短大への要望
- なお、今回の分析の対象とするのは、①から④である。

【結果】

1. 回収率

200園中123園から回答があった。回収率は61.5%である。

2. 回答園の全体的概要

1) 園の設立年

園の設立年について尋ねた。表1に示したように、回答のあった123園のうち、戦前いわゆる1945年の敗戦前に設立された園は51園（41.5%）あった。戦後に設立された園は68園（55.3%）、無答4園（3.3%）であった。

明治前半（－1891）	0（0）
明治後半（1892－）	8（6.5）
大正	22（17.9）
昭和（戦前）	21（17.1）
昭和（戦後）	65（52.8）
平成	3（2.4）
無答	4（3.3）
計	123（100）

2) 園の種別

園の種別については、学校法人が83園（67.5%）、社会福祉法人は17園（13.8%）、宗教法人は20園（16.3%）、個人立1園（0.8%）、その他は2園（無認可と無答、1.6%）であった。キリスト教保育連盟に加盟する70－80%が幼稚園であることが窺える。

3) 園舎と教会の敷地

園舎は教会の敷地内または隣接しているかを尋ねたところ、隣接しているという回答は84園（68.3%）、隣接していないは39園（31.7%）であった。

4) 園の特徴（複数記入可）

キリスト教保育という以外に何か園の特徴を持たせているかの問いには、41園がなんらかの特徴を持たせていると回答した。その内訳は表2のとおりである。

英語・英会話関係	12
体育・体操関係	8
音楽・リトミック関係	5
自由遊び・子ども主体	4
スイミング	3
環境・自然関係	3
統合・障害児保育関係	3
シュタイナー教育	2
モンテッソーリ教育	2
その他*	12
無答	1
計	55

*は、コーナー保育、チーム保育、メンタルプレイ、学研、手づくり給食、縦割保育、少人数制、食・遊・歩で体を育てる、親のために保育を行う、地域交流、茶道・華道、読書教育が各1

3. 園長について

「園長先生ご自身は、キリスト教信者ですか」という問いに対して、123人の園長の内115人（93.5%）が「はい」という回答であった。未信者の園長は7人（5.7%）、無答1人（0.8%）であった。

所属教団を尋ねたところ115人中日本基督教団が77人（67.0%）と最も多く、次いで日本キリスト教会（6）、日本メソナイト教会協議会（5）、日本聖公会（5）と続いていた。（表3）

日本基督教団	77 (67.0)
日本キリスト教会	6 (5.2)
日本メソナイト教会協議会	5 (4.3)
日本聖公会	5 (4.3)
日本バプテスト同盟	4 (3.5)
日本バプテスト連盟	4 (3.5)
日本ルーテル教団	2 (1.7)
チャーチ・オブ・ゴッド	1 (0.9)
日本アライアンス教団	1 (0.9)
日本同盟基督教団	1 (0.9)
日本福音キリスト教会連合	1 (0.9)
日本福音ルーテル教会	1 (0.9)
保守バプテスト同盟	1 (0.9)
バプテスト教会	1 (0.9)
単立	1 (0.9)
カトリック	1 (0.9)
無答	3 (2.6)
計	115 (100)

受洗後の年数については、21～30年が27人、31～40年が29人、41～50年が20人となっている。(表4)

教会での役割については、52人(45.2%)が牧師であり、信徒と役員(執事)を合わせた49人(42.6%)を上回っていた。(表5)

表4 園長の受洗後の年数 単位:人(%)

10年以下	5 (4.3)
11～20年	9 (7.8)
21～30年	27 (23.5)
31～40年	29 (25.2)
41～50年	20 (17.4)
51～60年	11 (9.6)
61～70年	5 (4.3)
71年以上	1 (0.9)
無答	8 (7.0)
計	115 (100)

表5 園長の教会での役割 単位:人(%)

牧師	52 (45.2)
副牧師	2 (1.7)
伝道師	0 (0)
信徒	26 (22.6)
役員(執事)	23 (20.0)
その他(引退・隠退牧師)	3 (2.6)
無答	9 (7.8)
計	115 (100)

4. 主任について

園長への問いと同じように主任についても尋ねた。ただ、主任は、各園に必ずいるわけではなく、また、複数いる園もあった。そのような中での調査結果として、主任として数えられている118人中、キリスト教信者であると答えたのは66人(55.9%)であった。

未信者の主任であっても教会での働きがあるかどうかを尋ねた。特になしが27(62.8%)であったが、教会学校(CS)、奏楽の奉仕をしている主任がいずれも7人(16.3%)いるとい

表6 主任信者の所属教団 単位:人(%)

日本基督	44 (66.7)
日本キリスト教会	4 (6.1)
日本メノナイト教会協議会	3 (4.5)
日本聖公会	3 (4.5)
日本バプテスト同盟	2 (3.0)
日本バプテスト連盟	2 (3.0)
ルーテル同胞	1 (1.5)
日本アライアンス	1 (1.5)
日本ルーテル	1 (1.5)
日本福音キリスト教会連合	1 (1.5)
保守バプテスト同盟	1 (1.5)
単立	1 (1.5)
カトリック	1 (1.5)
無答	1 (1.5)
計	66 (100)

う結果であった。

所属教団については、66人中日本基督教団が44人（66.7%）と最も多かった。（表6）

受洗後の年数は、11～20年が19人、21～30年が15人となっている。（表7）

教会での役割については、信徒が36人（54.5%）と最も多かった。（表8）その他の内訳は、オルガニストや牧師夫人、CS教師などであるので、これらも信徒の枠に入れることができるだろう。

表7 主任の受洗後の年数 単位：人（%）

10年以下	9（13.6）
11～20年	19（28.8）
21～30年	15（22.7）
31～40年	9（13.6）
41～50年	4（6.1）
51～60年	3（4.5）
無答	7（10.6）
計	66（100）

表8 主任の教会での役割 単位：人（%）

牧師	1（1.5）
信徒	36（54.5）
役員（執事）	16（24.2）
その他	11（16.7）
無答	2（3.0）
計	66（100）

5. 保育者について

保育者について尋ねた結果は、表9以下にある通りである。

回答のあった123の園に所属する保育者は、全部で868人（内正採用635人、男性保育者26人）である。そのうちキリスト教信者は135人（15.6%）という結果となった。ただし、これらの人たちは65園に集中しており、残る58園には信者が一人もいないということになる。（表9）

表9 信者の保育者数 単位：園（人）

1園に0人	48（0）
1園に1人	35（35）
1園に2人	11（22）
1園に3人	9（27）
1園に4人	6（24）
1園に5人	3（15）
1園に12人	1（12）
無答	10（0）
計	123（135）

保育者たちの所属教団については、135人中日本基督教団が62人（45.9%）、次いで日本聖公会（7）、日本キリスト教会（5）となっている。なお34の無答があった。（表10）

受洗後の年数は、10年以下が37人（27.4%）、11～20年が29人（21.5%）である。ただし、無答も39（28.9%）と多かった。（表11）

保育者についての最後の質問は、保育者たちの信仰生活や教会の奉仕が、保育にまたは保育

者として役立っていることがあるかというものである。信者のいる65園の内47園からなんらかの回答があった。その内有効回答数は51であった。結果は表12にある通りである。(表12)最も多いのがC S (教会学校)の奉仕(12)、次いで祈ること(9)、奏楽の奉仕(7)、聖書の知識と理解(7)と続いている。

表10 保育者信者の所属教団 単位：人(%)

日本基督教団	62 (45.9)
日本聖公会	7 (5.2)
日本キリスト教会	5 (3.7)
保守バプテスト同盟	4 (3.0)
日本アライアンス教団	3 (2.2)
日本メノナイト教会協議会	3 (2.2)
単立	3 (2.2)
日本バプテスト同盟	2 (1.5)
日本バプテスト連盟	2 (1.5)
インマヌエル総合伝道団	1 (0.7)
カトリック	1 (0.7)
セブンスデー・アドベンチスト	1 (0.7)
家の教会	1 (0.7)
日本基督改革派	1 (0.7)
日本福音キリスト教会連合	1 (0.7)
不明	4 (3.0)
無答	34 (25.2)
総計	135 (100)

不明…バプテスト、ルーテル同盟、福音同盟キリスト

表11 保育者の受洗後の年数 単位：人(%)

10年以下	37 (27.4)
11～20年	29 (21.5)
21～30年	14 (10.4)
31～40年	10 (7.4)
41～50年	3 (2.2)
51～60年	2 (1.5)
61～70年	0 (0)
71年以上	1 (0.7)
無答	39 (28.9)
計	135 (100)

表12 信者として保育に役立っていること 単位：人

C Sの奉仕	12
祈ること	9
奏楽の奉仕	7
聖書の知識と理解	7
教会での交わり(青年会含)	5
讃美歌・音楽の知識	4
教会暦の知識	2
その他信仰の姿勢など	5
総計	51

6. キリスト教保育を实践する上での意見

質問紙調査の後半は、それぞれ回答者の意見を尋ねている。実際の回答者としては、123園からの回答者の内、園長が96人（78.0％）でもっとも多く、次いで主任が12人（9.8％）、その他14（11.4％）、無答1であった。その他の内訳は副園長、事務長などであった。

キリスト教保育を实践する上での意見について、次のように選択肢をあげて尋ねた。すなわち、「キリスト教保育を实践するという中で、保育者は、a.キリスト教信者でなければならない、b.キリスト教信者であることが望ましい、c.キリスト教信者でなくても、キリスト教保育に理解を示していることが大切、d.キリスト教信者でなくても、また、キリスト教保育に理解が特になくても保育に支障はない、e.その他」である。そして、それぞれの意見を持つ理由について尋ねた。

結果は、表13以下のとおりである。なお、bとcのいずれも選択されていたものについては、上位bの方に入れた。

表13 キリスト教保育を实践する上での意見 単位：人（％）

a. 信者でなければならない	5（4.1）
b. 信者であることが望ましい	71（57.7）
c. 信者でなくても、理解が大切	38（30.9）
d. 信者でなくても、理解がなくてもよい	1（0.8）
e. その他	1（0.8）
無答	7（5.7）
総計	123（100）

キリスト教保育を实践するという中で、保育者は「キリスト教信者でなければならない」という回答は5つのみであった。理由としては、「キリスト教保育とキリスト教的保育の違いである」「信仰をもって保育に当たってほしい」「信徒として生きることなくしては伝えられないものがある」「分級でみ言葉を学ぶため。神の愛、真理を伝えるため」「理想はaだが現実はずう」であった。

結果がbの「キリスト教信者であることが望ましい」とcの「キリスト教信者でなくても、キリスト教保育に理解を示していることが大切」という回答理由については、それぞれカテゴリー化して表14、15に示した。

表14 信者であることが望ましいという意見の理由

カテゴリー	主な内容	園数
キリスト教	キリスト教保育の園だから／信仰に基づいてなされるから／日々の礼拝が中心だから／保育者の信仰生活に包まれることが大切だから／生き方を伝えるものだから	12
信仰理解	共通理解のもとで保育したいから／恵みの理解が大切だから／罪の自覚と未信者と全く違うから／十字架の愛が根幹にあるから／倫理観において共通理解が得やすいから	12
教育	園の方針に合致することが第一だから／教育理念を本当の意味で理解できるから／全人格が教育に繁栄されるから／頭での理解と心での理解では全く違うから	7
証し・伝道	キリスト教保育とは子どもをキリストへ導くものだから／証しのため／信仰者としての喜び・感謝をもって保育できるから	7
当然	当然であるから／必然であるから	4
マイナスになる	礼拝・賛美が形だけになるから／教会との関係がとれないから／形だけの信者であってはむしろよくない	3
祈り	子どもといっしょに祈ることが多いから／教師間の祈りが大切だから	2
その他	教会の宣教課題だから／子どもを尊重することが大事だから	2

表 15 信者でなくてもキリスト教保育の理解が大切という意見の理由

カテゴリー	主な内容	園数
キリスト教保育の理解	信仰は個々の問題。理解により実践可能だから／理解しないと実践できないから／理解する姿勢があればできる／キリスト教保育の本質は保育の本質だから／毎日讃美歌、祈りがあるから／礼拝出席、学び、祈りが大切だから	15
困難	信者の確保が困難だから／家庭の事情で受洗できない人、信者以上に信者らしい人もいる	6
不適な信者	信者が保育者に向くわけではない／信者でも能力面で実践できない教師もいる	3
その他	園の活動が教会暦になっているから／保育の基本は信仰によって成り立っていないから	3

「信者であることが望ましい」という意見の理由をカテゴリー化したとき、もっとも多いのは「キリスト教」と「信仰理解」のカテゴリーで、それぞれ12あった。主な内容を見ると、キリスト教の精神による生き方すなわち信仰生活の上に立った保育者を、回答者は園として求めているということが読み取れる。園の教育方針に対しても、信仰的な立場から真の意味で理解が可能になると考えられていることが窺える。

一方、「信者でなくてもキリスト教保育の理解が大切」という意見の理由については、「キリスト教保育の理解」のカテゴリーに含まれる意見がもっとも多かった。信仰を持ってほしいという気持ちは窺えるが、キリスト教保育というものの理解があれば、実践は可能であるという意見だと思われる。人材を確保できないからという理由をあげた園も6園あった。

「キリスト教信者でなくても、また、キリスト教保育に理解が特になくても保育に支障はない」という意見は、1つだけであった。理由は、保育現場は保育に徹する場所だからというものであった。

7. 園と教会の関係について

園と教会の関係について、それぞれの質問に対し、はい、いいえ、どちらともいえないの選択肢をあげて尋ねた。結果は表16の通りである。

表 16 園と教会の関係について

単位：太線内上段は園数、下段は％

	はい	いいえ	どちらともいえない	無答	計
園の保育者は必ず日曜日の礼拝に出席すべき	56 45.5	12 9.8	43 35	12 9.8	123 100
園の保育者は、教会の行事に可能な限り協力すべき	70 56.9	8 6.5	33 26.8	12 9.8	123 100
5年くらい勤務したら、受洗してほしいと思う。	46 37.4	9 7.3	52 42.3	16 13	123 100
園長は牧師が兼務するほうがよいと思う。	23 18.7	27 22	64 52	9 7.3	123 100
教会と園は、いつも密接な関係をもっておくべき	98 79.7	2 1.6	14 11.4	9 7.3	123 100

まず、保育者は必ず日曜日の礼拝に出席すべきかという問いに、出席すべきという回答は56 (45.5%) ともっとも多かった。どちらともいえないは43 (35.0%) であった。

教会の行事に可能な限り協力すべきかについては、協力すべきが70 (56.9%) と半数を超えた。どちらともいえないは33 (26.8%) で4分の1強である。

5年くらい勤務したら受洗してほしいと思うかについては、どちらともいえないが52(42.3%)ともっとも多く、思う(はい)の46(37.4%)をわずかに上回った。思わない(いいえ)は9(7.3%)にとどまった。

園長は牧師が兼務するほうがよいかについては、どちらともいえないが64(52.0%)で半数を超え、兼務するほうがよいと答えたのは23(18.7%)と5分の1に満たなかった。

教会と園はいつも密接な関係をもっておくべきかについては、もっておくべき(はい)が98(79.7%)と約8割を占めた。

この項目の最後に、園と教会の関係について自由記述式で回答者の意見を求めた。有効回答数は61あり、内容を分類して表17に示した。半数を超える32の意見は、教会の立場から、または、教会の側に対する意見であった。教会の理解・協力、祈りの上に園の働きがあるという考え方である。教会と園の相互の努力や交流を重要視した意見も3分の1近くあった。そして、日曜日の礼拝を義務づけたり、園あつての教会だというような意見はむしろ少なかった。

表17 園と教会の関係についての意見

カテゴリー		主な内容	園数	
教会	教会が主体	教会あつての園／園は教会の業／教会が生み育てる責任ある／園はC Sの1つのクラス	9	32
	教会の理解・協力	教会は園の働きに理解を／教会に応援してほしい／教会の協力は当然／魅力的な教会にすべき	8	
	教会の祈り	教会の祈り大事／教会の祈りに支えられている・支えていただきたい	6	
	牧師について	宗教主任として役割ある／園長との兼務は難しい／経営センスが問われるので難しい(牧師園長)	5	
	伝道の間	園は伝道の役目がある／園も神の栄光を現すもの	4	
園	日曜礼拝出席	礼拝は研修／比較的強制／月1回／礼拝出席を確約してもらっている	6	10
	その他	園あつての教会。宣教の業と一体化／牧師園長兼務の場合、信頼できる主任が必要／附属でないのでキ保を続けるのは困難／保育者は教会所属を	4	
両者	双方の努力	お互いを必要とする関係を保つ努力必要／園の行事への案内・招待／教会の礼拝・祝会に出席を／相互理解、絆を強める必要がある／連携、共存大切／密に行われている(親の中から受洗者)	10	19
	関係希薄	交流少ない／学法になってメリット減った／少子化。教会も園を支えられない／両者の接点が見出せていない	8	
	行事	土曜休日、日曜保育。行事関わり大	1	

【考察】

1. 園長、主任、保育者の信仰についての結果を巡って

キリスト教保育を実践する保育施設において、園長が信者である割合は93.5%と非常に高かった。しかし、未信者の園長も事実いることが分かった。しかも、その場合、主任にも保育者たちの中にも信者の全くいない園が5園あった。これは、全体の4.07%にあたる。

主任が信者である割合は55.9%(123名中66名)と半数を超えていた。また、主任の中には、信者でなくても教会学校や奏楽の奉仕などを行っている人が、約3人に1人いることが分かった。

キリスト教への理解や教会の交わりを、奉仕を通して主任に学んでもらおうとしている園長や教会の思い、願いがあるように思われる。奉仕や当番が回ってくる割合は、毎週なのか月一度なのかは不明だが、教会での体験が何らかの形で日常の保育に生かされるであろうことは十分に推測できる。主任としての理解や自覚から、自発的に教会と関われる主任であれば、園と教会の関係は良好なものになっていくだろう。反対に強制されているとか、主任だから仕方ないといった考えからだとしたら、両者の関係はいつになっても良い方向には進まないのではないだろうか。園それは特に保育者たちと、教会つまり牧師や教会員をつなぐ役割の大きさは、園長よりも主任の方にあると私は考える。後述する保育者の信者の割合が少ないことから、主任の在りようはキリスト教保育の要である。

保育者がキリスト教信者である割合は、15.6%と低かった。それでも6.4人に1人は信者である計算になる。また、それは123園中135人いるということであるから、平均すれば1園に約1.1人いる計算にもなる。しかし、実際には、123園中47%にあたる58園には、信者の保育者が一人もいないという結果だった。つまり、キリスト教保育施設の半数弱の園には、直接子どもに関わる信者の保育者は全くいないのである。園長が牧師なり信者であっても、信者の保育者が不在であったり少ないことは、キリスト教保育にどう影響するのだろうか。または、影響しないのだろうか。キリスト教保育を实践する上での意見を聞いた項目（結果6）で、「保育者は信者でなくても理解がなくても保育に支障はない」と回答したのは1人に過ぎなかった。キリスト教の信仰や知識に対する理解なくしては、少なくともキリスト教保育は成り立たないという考え方が、回答者、つまり園側の考え方の根本にあると言えるだろう。

確かに、信仰の有無が、保育の理念や方法を全く変形させてしまうことはない。しかし、園長が信者であればキリスト教保育は可能だとは言いきれないし、未信者の保育者たちが聖書の話や祈りを形式的にでも行えばそれでいいという問題でもないだろう。信仰の決心は、あくまでもその人と神との問題である。しかし、キリスト教保育の理念をいかに皆で共有し、形式的でない保育をするにはどうしたらよいか、今後のキリスト教保育界と教会の課題は大きいと思われる。私は、信者であろうとなかろうと、生きた力あるみ言葉への信頼が大切であると考え（「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」へブル書4：12）

2. 今後のキリスト教関係各所の在り方について

キリスト教保育の歴史は決して短くはない。各園の創立当初のキリスト教信者の占める割合は、今のそれと同じでは決していないだろう。いつからなのか、おそらくいつのまにかという印象かもしれない。また、キリスト教主義大学にキリスト者学生が少ないという印象を持っているのも、私だけではないだろう。さらに、教会の若者たちが減少していることも認められると思う。つまり、キリスト教保育の現場の保育者にキリスト教信者の少ないことは、園の責任とも大学の責任とも、また、教会の責任とも、それは一概には言えないということであろう。かといって、皆が責任を放棄することも相応しい姿勢とは決して言えない。それぞれが事実を認識し、それぞれの立場で今後の対策と対応を考えることが大切だと思われる。そして、園・大学・教会間の連携こそ今後さらに必要になってくる事柄ではないだろうか。それは情報交換であったり人的な交流や研修、また学会であったりもするだろう。同じキリスト教を土台とする

組織や人々が、垣根を越えて集まり、話し合い、相互の連携を深めていくことを私は希望する。それが、子どもの保育に反映していくに違いないと信じるからである。

【おわりに】

今回、キリスト教保育連盟に加盟している限られた場所の幼稚園と保育園に対してアンケート調査を行った。200園に配布し回収率が60%を越えたので、ある程度の信頼性を得られたと考えている。しかし、まだ全国にはさらに500近くの加盟園があり、また、未加盟のキリスト教主義幼稚園・保育園もある。宗教教育の観点からいえば、カトリック系の保育施設に働く保育者たちはどうか、司祭たちの考え方はどうかなど、調査・検討したいことは残されている。さらに、仏教系の保育施設はどうなっているのか。これも私の関心から離れていない。子どもの保育を少しでもよりよくするために、キリスト教保育や宗教教育の役割は大きいと思われるので、今後さらに研究を進めていきたい。

【参考文献】

- 加藤西郷『宗教と教育 ― 子どもの未来をひらく』法蔵館、1999年
キリスト教保育研究委員会『キリスト教保育アンケート報告 ― 現状と課題』キリスト教保育連盟、2006年
国学院大学日本文化研究所編『宗教と教育 ― 日本の宗教教育の歴史と現状』弘文堂、1997年
深谷松男『信託された教育 ― キリスト教学校の現場で考える』キリスト新聞社、2003年